

まちの元気じるし登場 ～企業訪問 宝石時計メガネ山崎 (中郷商工会)

新潟県上越市中郷区は、妙高市と隣接する人口約4,400人の地域です。

今回は、『宝石時計メガネ 山崎』を訪ね、山崎清一さん・愛子さんご夫妻に

お話を伺いました。



山崎さんご夫妻

丁寧な仕事

父が開いた時計屋は創業から75年が経ちました。清一さんは高校卒業後に上京し、住み込みで働きながら時計学校で学び、興味があった眼鏡の勉強にも励んだそうです。地元に戻り、眼鏡も扱いたいと、反対する父を説得し、高額な測定機を導入して処方を始めました。一人一人に合わせた眼鏡を作るため、測定にも時間がかかりました。正確で丁寧な仕事ですが、初めはお客様に理解してもらうのに苦労したと言います。しかしその効果は、眼鏡の装着感で十分に伝わり、固定客は徐々に増えていきました。



御用聞き

常連客は中高年の方がほとんどです。ある日、腕時計の電池交換のために、わざわざタクシーで来店するお客様を見て、「これはほっとけない」という気持ちから、自宅へ出向くことが増えたそうです。とても採算の取れるものではありませんが、商売の形態が変わってきていることを実感し、「昔のような“モノを売る”という感覚は捨てないとダメだ。」と、ご主人は言い、今日も待っていてくれる大切なお客様のところへ出掛けて行きます。

看板娘は母娘4人

結婚前に始めた宝石販売では、“お客様の気持ちを理解する”という販売の極意を守っています。

既に成人した3人娘は母譲りの器量よし。今も展示会等の手伝いに来てくれ、お客様との会話にも花が咲きます。毎年メーカーと同業社で、「真珠まつり」や「秀峰展」を開催しており、毎回楽しみに来てくださるお客様も多いそうです。賑わう会場を見て、自分の事のように喜んでくれる方もいると嬉しそうに話してくださいました。

商工会女性部の副部長でもある愛子さんは、明るく料理上手。人に喜んでもらうのが大好きな性格で、地域の子供達とバレーボールをしたり、インディアカをしたり、集まりのお世話をしたり、まさに、“地域の元気じるし”です。



地域に支持される憩いの場

あらゆるモノの価格競争が激化する中、清一さんは、「良いものを安く仕入れて売るのが商売。安いものを安く仕入れて売るのは商売ではない。仲間同士で競争はしたくないから、安売りはしない。」とキッパリ。

愛子さんは、「主人はいつも、お茶を飲みに来る人も、100円買ってくださいる人も100万円買ってくださいる人も、みんな同じ大切なお客様だと言っています。アフターサービスの徹底はもちろん、商売は儲けのためだけにするわけではなく、お客様の便利のために店を開けておくものだ。商売に関して決して妥協をしません。」と、先代から受け継ぐ大切なモットーを教えてくださいました。

店には、病院帰りのおばあちゃん達や、お喋りを楽しみに訪れる方も多いそうです。夫婦揃っての面倒見の良さと、夫婦漫才のような掛け合いが楽しく、周りを明るくしてくれます。それが魅力となって、人が訪ねやすい、寄りやすい雰囲気を作ります。これからも地域の憩いの場になって欲しいと願っています。



【お問い合わせ】 宝石時計メガネ山崎

〒949-2301 上越市中郷区板橋 537-1

TEL/FAX 0255-74-2123